

Thinking Tuesday



伏見区・富永泰治郎さん

「櫻舞う白鷺城」



京都府精華町・小儀紀行さん

じいちゃん。乾杯でちゅ



西京区・西澤淳子さん

い〜い湯だったーな、ハハハッ



守山市・太田礼子さん

「今年はボクも阪神ファンだじょ〜」



西京区・長谷川ゆかさん

☆空の青さに映える桜並木



粟東市・橋本佐知子さん

☆美容院で男前に変身中☆



ねえ。家の中に入ってもいい？



郵便局員。ポストの鍵穴に... しばらく開函できなかった

愛媛県松山市・浜田広和さん

携帯カメラでパロディ

携帯カメラで撮った写真で、京都新聞の紙面を飾ってみませんか。応募作品の一部を、毎週このコーナーで紹介しします。

写真のテーマは設けません。メールに添付のうえ、携帯電話から送ってください。メール本文には▽住所▽氏名▽写真の簡単な説明(25字以内)一を必ず明記してください。6月末には優秀作を選び、最高3万円相当の賞品を贈ります。掲載された写真は本社ホームページでも紹介します。

応募アドレス
keitai@mb.kyoto-np.co.jp

二ノ一ス写真提供のお願い
デジタルカメラ、携帯電話で撮った二ノ一ス写真を京都新聞の下記のアドレスに送ってください。送信後は写真報道部(075-241-6143)へ確認の電話も掲載の場合は、謝礼を贈らせてまいります。

shot@mb.kyoto-np.co.jp

93

野々傘の最後の仕上げ。油を塗って天日で干す(京都市上京区・宝鏡寺境内)



骨組みの後、手作業で丁寧に和紙を張っていく



萬谷 彰三

日々新たに 老舗のいま

庭園で使われる野々傘の座には綿毛氈を敷いた床机のそばに大きな和傘が飾られている。日本情緒を演出するのに欠かせな

日土口屋

い小道真だが、野々傘とよぶ。この和傘を作る店がもっと少なくなった。京都市上京区の宝鏡寺前で代々、和傘を作り続けてきた日土口屋はそんな一軒だ。「おもに茶道の表裏両千家で使われる傘を、昔から作っています。若い店主の西畑耕太郎さん(こむぎ)は、千家で使う野々傘の特徴を話してくれた。野々傘は内側に綿糸を多く用い、傘の先端を折り曲げた。妻折れと呼ぶ形が一般的だ。野々傘の最後は野々傘の油を塗って天日で干す。京都市上京区・宝鏡寺境内

和傘の伝統を守る職人芸

ネット通販で需要増える

張ったあと油を塗る。すべてが手作業だ。「(限られた用途だった和傘が)このごろ実用以外の場に広がっている。日吉屋では五年前ほど前から、インターネット通販を始めた。以来、メールによる注文が東京はじめ全国各地から入りだした。中には関東方面から、わざわざ京都の店まで買いに来る女性もある。「若い人には、和傘は目新しいのでしょ。結婚式の披露宴に名前入りで飾られますし、贈り物にも喜ばれるんですよ」。名前のほかに家族を入れたり、屋号をつけ店のディスプレイにする。この色を染め替わらせて、自分だけの傘を愛用しはじめた。海外に住む日本人や、カナダの和紙を販売する店からも注文が舞い込んだ。新しい需要の開拓に伴い、異なる素材や塗料との共同製作の話も持ち込まれている。和紙の代わりに、生分解性樹脂の複合素材や大手メーカーが開発した新素材を使った傘の新製品を試作する依頼があり、真田細や金箔など他の伝統工芸を取り入れる試みも進めている。「和傘をインターネットとか、もっと日常生活に使ってもらいたい。そのために、異業種の人たちと交流していろんな可能性を考えていきたい」。西畑さんは柔軟な発想で、伝統の枠を広くとって取り組んでいる。(経済ジャーナリスト 萬谷 彰三)

【メモ】京都市上京区寺之内通堀川東入ル百々町。創業は江戸時代後期。二代目から現在の場所に移り、宝鏡寺の境内で傘を干して仕上げ。和傘には野々傘のほかに蛇の目傘、番傘、舞傘がある。ホームページはhttp://www.wagasa.com